５　「めざす子ども像」について

ふるさとを思い　志をもつ子

「ふるさと」とは、「人が生まれ育ったところ」「安らぎ・親しみ・懐かしさを感じる場所」としてのとらえはもちろんのこと、「自己を支えている心のよりどころ」であり、「生きていくための礎」でもある。

鳥取市の子ども達には、まず「ふるさと」を教育活動の根っこに据え、多様な体験や経験に支えられた豊かな人間性・社会性を「ふるさと」鳥取の中で培っていく教育が必要である。「ふるさとを思う子」は，周囲の「役に立ち」、他を「思いやり・感謝」し、他と「助け合い」ながら「ふるさと」で育った原風景を心に刻むことにより、世の中を生きていく力をつけた姿をイメージしている。

「志」とは、「心が之く」こと、つまり「心が向かう」という意味があり、「人生における、その人としての到達目標・理想」と定義される。さらに「志」には、「人々の心を貫いてつなぐ」という、個人のみならず多くの人々を感化し揺り動かす意味もある。

「志」は甘い夢やロマンではない。信念に支えられた心である。ありたい自分に向けて行動を起こすことである。したがって、「志をもち」、理想とする生き方・あり方をめざした人になるためには、必然的により困難な場面を乗り越える力強さが求められる。「志をもつ子」は、直面した壁を乗り越えていこうとする「勇気」、ねばり強く取り組む「忍耐力」、さらには自ら切り拓いていく「たくましさ」をもちあわせた姿をイメージしている。